

ご 挨拶

第17回東西四大学合唱演奏会を本日ここにめでたく迎えることができました。1952年の第1回の演奏会以来、幾多の困難を乗り越え、克服し続けて今日に至ったのであります。これも皆様方の暖かいご支援の賜物と深く感謝しております。

本日の演奏会に出演する四つの大学はそれぞれ輝かしい歴史と伝統を持ち、アマチュア合唱界の指導的役割を果たしてまいりました。

遠隔の四校が一堂に会して演奏会を催すことは大変意義深いことであり、単なるお祭り騒ぎに終わることなく、相互の刺激と励ましとよっての切磋琢磨を通して、高度な合唱精神、合唱技術を身につけ一層の発展を得るとともに、少しでも日本の合唱音楽の向上に役立てばと考えております。

末筆ながら、お忙しいところをご来場くださいました皆様に深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしくご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

《東西四大学合唱連盟》

ご あ い さ つ

慶応義塾大学塾長

永 沢 邦 男

相異なる校風を持つ同志社大学、関西学院大学、早稲田大学、慶応義塾大学の東西四大学が、合同演奏会の機会にともに日頃の成果を披露し、年ごとにますます力強い歩みを続けておりますことは、誠に慶びに堪えません。

学生諸君が、学業のかたわら、音楽追求という共通の立場で、共に歌い、語り合うことは、きわめて意義深いものです。こうした音楽活動を通じて培われた人間性は、将来、必ずや大きく実を結ぶことでしょう。

ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は、創立以来68年の間、よき指導者のもとで、ワグネル独自の音楽性を追求し、今日に至っております。来春、ニューヨークで催される世界大学合唱祭にアジアの代表として、ワグネル・ソサイエティー男声合唱団が選ばれましたことは、慶応義塾として誇りに思うものであります。なお、これからも他の三校とともに一層素晴らしい音楽を創りあげ、また相互親睦を深め、よきライバルとして合唱芸術向上のため努力されることを期待します。

最後に、この演奏会を開くにあたりご尽力くださった先輩、関係各位ならびにご来場の皆様に深く御礼申し上げます。

同志社大学学長代行

齋 藤 玄三雄

初夏の訪れとともに恒例の東西四大学合唱演奏会が、早稲田、慶応義塾、関西学院、同志社の諸君を京都・岡崎に迎えて盛大に催されることになり、私ども関係者といたしまして誠に歓びにたえない次第であります。

本日出演の諸君は大学にあってそれぞれに輝かしい歴史と伝統を誇っておりますが、学業の余暇に切磋琢磨した合唱技術の成果を発表しあい、かつ互いの友好をますます深めることによって、より高度な音楽性の追求に励んでいるのであります。彼等が創造する美しいハーモニーの世界は、すなわち調和、協調の精神につながります。この活動を通して豊かで潤いのある人格の形成を期待するものであります。

今宵、京都会館での開演にあたり多大のご尽力をいただきました先輩関係各位ならびにご来会の皆様に厚く御礼を申し上げましてごあいさつといたします。

早稲田大学教授

五十嵐 新次郎

このごろは忙しさにまぎれて、自分がお世話をおおせつかっている早稲田のグリー・クラブの演奏会すら聞きに行くひまがない。まことに申しわけないことだと思っている。四大学の合同演奏会もこのところご無沙汰がちである。これまた大変申しわけないことだと思っている。

ただし壇上一杯に四大学の合唱団が勢ぞろいして、エールの交歓をし、合同演奏する壮観は忘れられない。合同演奏のみならず、四つの大学がそれぞれ技をきそうさまも、単独の演奏会にはみられないような真剣さが感じられたことも忘れられない。

今年こそはと思っているが、役職の関係でまただめになるかもしれない。役職が幸い9月で終わるので、そうしたら思う存分合唱を楽しもうと思っている。声高らかにうたいたまえ、思う存分に。

関西学院大学長

古 武 弥 正

慶応、早稲田、同志社、関学の四大学が集まって、第17回東西四大学合唱演奏会が開かれるにあたり衷心より祝賀の意を表します。

それぞれに素晴らしい伝統をもった四大学、その四大学の若人たちのみごとなハーモニーとメロディーとリズム、本当に皆様の心を酔わせるにちがいありません。私も合唱音楽は大好きです。人の声はそれぞれに個性をもっています。そして多数の人が声を合わせる、これこそ本当にメンタルハーモニーの姿であります。

四つの偉大な伝統がこの合唱にとけ合うのです。若人達の輝かしい力がここに結晶します。未来の世界をひらく力強い声だと思えます。若い聴衆者諸君はともうたってください。年上の皆様は未来への夢をこの声に托していただきたいものです。

PROGRAM

エール交歓

第一日目

早 稲 田
関 西 学 院
慶 応 義 塾
同 志 社

第二日目

慶 応 義 塾
同 志 社
早 稲 田
関 西 学 院

慶応義塾ワグネル・ソサイエティ 男声合唱団

「メンデルスゾーン男声合唱曲集」

指揮 木 下 保

1. Der frohe Wandelsmann
2. Abendständchen
3. Trinklied
4. Abschiedstafel

同志社グリークラブ

「男声合唱のためのコンポジション」Ⅲ

指揮 福 永 陽一郎

- ・ 艦 (とも)
- ・ 羯 鼓 (かっこ)
- ・ 引 き 念 仏

作曲 間 宮 芳 生

早稲田大学グリークラブ

「Deutsche Messe」

Zum Eingang.

Zum Gloria.

Zum Credo.

Zum Offertorium.

Zum Sanctus.

Nach der Vandlung.

Zum Agnus Dei.

Schlussgesang.

指揮 浜田 徳 昭

作曲 F. Schubert

関西学院グリークラブ

「蛙 の 歌」

I い ぼ

II 青 い 花

III 河 童 と 蛙

IV 蛇 祭 り 行 進

V お れ も 眠 ろ う

VI 祈 り の 歌

指揮 北 村 協 一

伴奏 伊 奈 和 子

作曲 堀 悦 子

作詩 草 野 心 平

合 同 演 奏

阿 波 祈 禱 文

黙 示

指揮 北 村 協 一

作曲 清 水 脩

作詩 野 上 彰

作曲 清 水 脩

作詩 木 原 孝 一

● 慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団———曲 目 解 説

「メンデルスゾーン男声合唱曲集」

富裕な家庭ですぐれた教育的な環境に育ち、幼時から音楽、絵画、文章に秀でた豊かな才能を示したメンデルスゾーンは、その名フェーリックスのごとく幸福な生涯を送った。しかし彼の生涯を辿る者は、38年の短い生涯にもかかわらず作曲家、指揮者、ピアノオルガン奏者、教育家、組織者としての彼の多面にわたる活動や、彼の生涯を横切る多彩な人々に眼を見張るのである。

彼はバッハ、ヘンデルに傾倒し彼らの音楽の真価を世に示して功績があったが、これはメンデルスゾーン自身の古典的な均齊的形式に反映している。同時代のシューマンとは対照的な彼の作風は、時代思潮を古典的知性で抑制し、概して完成度の高い彫琢の行き届いたものであるが、妖精的な旋律の軽妙さ、絵画的な色彩性に独自の個性が輝やいているのである。彼には20曲ほどの男声合唱曲があって、いずれも緻密な構成を示しており、演奏にはかなり高度の技術が必要とされている。

さて、本日演奏します曲は1844年作曲された男声合唱曲集「きすらい人」 Wandelsmann で4曲からなっています。

- (1) 愉快なきすらい人 (アイヒェンドルフ)
きすらい人の神と自然への語りかけです。
- (2) タベのセレナーデ (アイヒェンドルフ)
おやすみ恋人よ……とやさしく語りかける小夜曲です。
- (3) 酒盛りの歌 (ゲーテ)
愛と正義を知るものは飲め、快活に歌います。
- (4) 告別の宴 (アイヒェンドルフ)
去る人の幸福と神の保護を祈って歌います。



NEW JAPAN

3日に1回・スチームバスと全身マッサージをおつけください。あなたの健康と若さをたもつヒケツです！

温泉 ニュージャパン

道頓堀・御堂筋 / 西 PHONE : 211-0832-4

「合唱のためのコンポジション」第三番

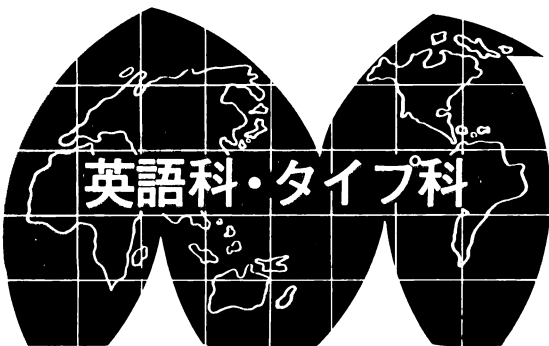
福 永 陽 一 郎

岡宮芳生には、現在（1968年6月）までに、6つの「合唱のためのコンポジション」がある。その最初は58年に無伴奏混声合唱のために書かれたもので、その独特の手法が、日本の民族音楽の新しい表現法の発見であったと同時に、西欧には見られない独創的な合唱音楽の誕生でもあって、音楽の世界に新しい視野を開いたものといえる。

以後、混声合唱の打楽器のための第二番、男声合唱のための第三番、児童合唱とオーケストラのための第四番「子供の領分」、混声合唱と器楽アンサンブルのための第五番「鳥獣戯画」、男声のための第六番がつくられている。この「合唱のためのコンポジション」に一貫している特徴的な作風は、非常に徹底したものである。それは、民族音楽の常として民謡を素材としていることはいままでもないが、いわゆる民謡の合唱用の編曲とはちがって、素材となった民謡が、それとわかる形では決して姿をあらわさない。素材の中の日本の民族的音楽性を抽出し、それを音楽の素朴な契機とし、民族音楽の発想の基礎として、その出発点から、新しい創作がおこなわれているのである。これらの曲の場合、人声は楽器でしかなく、歌詞——正確に言えば歌詞のような音符についている文字——は、人声を効果的にびびかせるためのシラブルにしかすぎない。

たとえば、この男声合唱のための第三番コンポジションでは「鱸押の唄」「網起しの唄」「神楽舞」「念仏舞」などが素材として用いられているが、本来のそれらの唄の歌詞やうたわれたときと場合などは、すでに全く意味を持たず、同時に用いられている、ハヤシコトバヤトナエゴト、芸能伝承の一般的な習慣としての太鼓や他の楽器のリズムを覚えるためにつけられた、意味は持たないが非常に便利なシラブルとともに、その語勢の持つエネルギーでしかない。だから、言葉の意味が通じないなどという不平は全く問題にならず、これらの作品は歌詞をもって人声でうたわれるにもかかわらず、抽象的な器楽作品となんらかわるところがない。

もう一つ、これらの作品は、バルトーク以後の現代音楽としての民族音楽の表現方法をとって、作曲者自身は、日本人の地声発声でうたわれることを期待しているような発言もしているが、世界的に共通した「共鳴発声」でうたっても、立派に日本民族の音楽性が表出できるほど、そのギリギリまで煮つめられ抽出された音の組合せは、純粋に日本そのものであって、むしろ、いわゆるバルカントでうたわれてこそ、作品にクローヴァルな価値があたえられると考えても、間違いはない。同志社グリーは当然、バルカントでうたうことになる。



世界を駆けめぐる本校の卒業生

立聖館学院

西宮市北口町2-1-5 阪急西宮北口駅前
電話西宮(0798) 67-2302・67-0477

● 早稲田大学グリークラブ ————— 曲目解説

「ドイツ・ミサ」

早稲田大学グリークラブの指揮台に立って 浜田 徳昭^{のりてる}

歌を愛する青年達!!

彼らの純粋な気持ちを、少しでも豊かに伸ばしたい——音楽を若い時代に身につけた幸福を思うと、大学生活に芸術的な芯棒があるのと、ないのでは大違いで、それに接する人々の人生そのものが変わることを信じ、微力ながら力添えをする気持ちを固めました。

合唱団体であるからには、もとより基礎のテクニックをおろそかにはできませんが、まず、合唱する諸君が、いつも生き生きとした表情で練習に励むこと、ついで口先でなく、心に感じながら歌うことを称揚したいと思います。要は、音楽を通じて、精神的な糧を体一杯に浴びてほしいのです。

曲もそういった思いのもとに選び、単に、歌詞や編曲の面白さで歌われるようなものは排し、あくまでも精神芸術に対する幅を広げることを主眼に、シューベルトの「ドイツ・ミサ」をとりあげました。したがって、暗闇に馬を走らせるような気持ちで選んだものではありません。

私は、彼らのひとりひとりが、歌うことに情熱をもつ尊い心の持主であると信じています。そして、音楽的雰囲気をも身につけ、潤いをもった社会人に成長することを、心から期待しているものです。

シューベルトの「ドイツ・ミサ」は、8つの曲からなる宗教的男声合唱曲で、1827年の初めか、その前年の末に、吹奏楽器の合奏による伴奏を付した混声合唱曲として作られたものです。その後、当時の高名な指揮者サイフリードが、無伴奏の男声合唱にまとめ、1866年にヘルベックが校訂し出版したのが、今日われわれの間に伝わっている「ドイツ語によるミサ」で、シューベルトの手になったままの姿ではありませんが、彼の作風の美しさ、その特質である素朴で自然な流れは、私達の心に深い印象を与えずにはおきません。

ミサとは、ローマンカトリック教会の典礼の中心をなすもので、その本義は、キリストが最後の晩餐にあたっていわれたお言葉にしたがい、司式者が、パンとブドウ酒を神に捧げ、これを聖化し、ついで、キリストのお言葉を復唱してこれをその肉と血とし、司式者が信徒に拝受せしめ、これにあずかるものがキリストにつらなり、正しい信仰をうけつたえたものであるとします。この儀式は、他の典礼と同じく、ことごとく、ラテン語で行なわれますが、これでは、信者も祈りの言葉のわからない場合が多いので、いつとはなしに、自国語によるミサが案出せられ、ドイツ語を話す国民の間には「ドイツ語ミサ」が広がりました。

結びとして、今宵、ステージに立つ若人達につき言葉を贈ります。

人間の真の成長は
多くの経験によってではなく
一生 心に残るものを
情熱をもって
自らのものとするによって
達成される

人生の建設途上にある青年達にとって、忘れ得ぬ思いとなるであろうこの発表会に、私も一員として音楽する幸わせを感謝し、ご参会の皆様に、今後のお力添えをお願い申しあげる次第です。

あなたのお住いの

ご相談には

近鉄不動産

TEL. 771-2525



合唱曲 「蛙 の 歌」

作曲者 堀 悦 子

冬眠から目覚めたユーモアないぼガエル。蛇にのまれてしまった少年ガエルの心情。蛙と愉快的河童のいる情景。青大将を血祭りにあげて埋葬行進する蛙たちの喜び。また冬眠に入る蛙たち。そして祈り。

○

草野心平の詩集「蛙」は、かねてから私の大変好きな作品です。作詩者の蛙にたいするさまざまな愛情、またはそれにたくした心情は、その作品中のどれをとり出してみても、満ち溢れているように思います。さらに加えて、ほんぼうなまでの音楽的要素——その詩がもっているこのような要素を、合唱曲にするうえで、いかに表現するか、また、それらを男性合唱というものの響きとあいまって、さらに異なるものにまでも高めることができたら——このように考えて作曲しました。

● い ほ

いよう、ぼくだよ、出てきたよ、いぼ蛙だよ
 ぼくだよ
 びっくりしなくってもいいよ
 ひかりがこんなに流れたりするのは
 ぼくが、グルグルみまわしているせいではないだろう
 やりきれんな、まっ青だな、においがキンキンするな
 ほっ、雲だな
 そっちでも、こっちでも
 ブツブツなんかなきだしたな
 けつとばされる冬
 まぶしいな、青いな、やりきれんな
 春くん、ぼくだよ
 いつものいぼだよ

● 青 い 花

トテモキレイナハナ
 イッパイデス
 イイニオイ
 イッパイ
 オモイクライ
 オ母サン
 ボク カエリマセン
 ヌマノ水口ノ
 アスコノオモダカノ
 ネモトカラ
 ボクトンダラ
 ヘビノ眼ヒカッタ
 ボク
 ソレカラ ワスレチャッタ
 オ母サン
 サヨナラ
 大キナ 青イハナ モエテマス

● 蛇 祭 り 行 進

びるるるるるっ
 はっはっはっはっ
 ふっふっふっふっ
 後足だけで歩き出した数万の蛙。
 篠竹に青大将をつきさしたゲリゲを先頭に。
 渦巻石罅うずの◎のように。
 だいらんを描いて行進する。
 びるるるるるっ
 はっはっはっはっ
 ふっふっふっふっ
 おうい歩調をあわせろうい。
 おういその篠を高くあげろうい。
 どの口からもどの口からも
 螢がしゅしゅ流れでる。
 びるるるるるっ
 はっはっはっはっ
 ふっふっふっふっ
 まっ暗闇の青たんぼを。
 煙草の輪のようにゆらゆらして。
 螢たちが渦巻のまんまであがってゆく。
 びるるるるるっ
 はっはっはっはっ
 ふっふっふっふっ
 行進曲は埋葬曲。
 心はあかるいお祭り提灯。
 そよかぜは絹のうすもの。
 星畑は花箋。
 ろんど。
 ろんど。
 びるるるるるっ
 はっはっはっはっ
 ふっふっふっふっ

第17回 東西四大学の合同演奏にあたって

作曲者 清水 脩

本年の四連定期演奏会の合同演奏に、私の近作二曲が歌われるときき、大変うれしく存じます。

東西四大学合唱連盟といえば、人も知るわが国合唱界のメイン・イベントの一つであると思います。各校はこの演奏会に、その全力を投入し、熱っぽい歌をきかせてくれてまいりました。私も一、二度きかせていただきましたが、そのたびに強い感動をうけたのを思い出します。もし、私に希望をいわせていただければ、その熱っぽさや誠実さに、サムシングが加えられれば、もう何もいうことはないと思います。それではそのサムシングでは何かといいますと、それは芸術が人々にあたえる高貴なゆとりとでも名づける資質です。人々は音楽に何を求めているのか、聴衆は四連の演奏会に何を求めているのか、そのところを知ることによって、このサムシングの内容を把みとることができると思います。うらがえしていいますと、演奏会はスポーツのゲームではないということです。四つの大学合唱団が一堂に会して、歌うという行為は何を意味するのか、それを明らかにすることです。

ところで、私の曲は「黙示^{もくし}」「阿波祈禱文」の二曲です。この作品の詩を読んでいただければおわかりのように、そこに共通したイデェがあります。それはもう説明するまでもなく、「戦争をやめよう」「平和をうちたてよう」の二つの切なる願いであります。それは人類のながい歴史を通じて、人間が求め続けてきた希求であり、しかも、いつの世にもまだそれを確実に自分の手につかんでいないものなのです。それでは果たして、人々は「戦争をなくし、平和を手に入れる」ことができるのであろうか。むつかしいことです。

人類の歴史は、ある意味では闘争の歴史であったといえなくはありません。しかし、だからといって戦争を肯定し、平和への疑念を持つしかないといえるでしょうか。私は、そうは思いません。人間に叡知のあるかぎり、私たちはつねに平和を求めて、巨大な歩みを続けねばならぬと思います。

私は「黙示」と「阿波祈禱文」の二曲の中に、そのような永遠の希求を表現しようとしてしました。こういえば、何か大変哲学的で思弁的な楽曲のようにお考えになるかもしれませんが、私はこの曲で「論議をしたり」「論文を書いたり」したではありません。人々の情念にちかいうったえたいと意図しました。

幸いに、作曲者の意図と願いが、歌う人たちにも、また聴いてくださる人たちにも、まっすぐに伝わっていきますよう、四連の今日の演奏会が、それによって、なんらかの意味を持つようになりますよう。(6月10日)



*ご家族そろってのお食事には!

堺駅前ボーリングセンター1階
50台駐車O.K.

喫 茶
レストラン

Mate

Tel. (0722) 3-5845 (代)

合同演奏指揮者 北村 協一

戦争はまだ終わっていない。東南アジアでも中近東でも戦火はくすぶり続けている。ベトナムに平和を、世界中が平和にという祈りを外に戦争は今日も行なわれている。

戦後20年以上過ぎたわが国では、その後直接戦火に見舞われることなく、一応平和な日々が続いている。多くの若者は戦争を知らず、今日本を背負うべく大きく成長してきた。国力も回復し、文化も安定し、そして安心して合唱を楽しみ、そして人々はよりよい生活を得るため毎日懸命に働いている。しかし、このような毎日を送ることをわれわれはあの忌むべき戦争中、考えたことがあるだろうか。また、今日の平和なわが国の生活をベトナムの人達は想像できるだろうか。戦争のニュースを見るにつけ、聞くにつけ、その裏に隠された多くの罪なき人達の苦しみ、悲しみを考えずにはおられない。家を焼かれ、田畑を失ない、肉親を死なせていく人達のことを。そしてなんとしても今のわれわれの生活の中に戦争を持ち込むことを断わり続けなければいけない。

と同時に、世界中から戦争というものを締め出すよう、声を大にして呼びかけ働きかけずにはいられない。

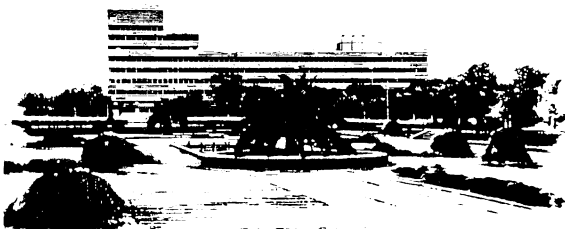
しかし世界は進んでいく。戦争への準備に余念がない。原爆は水爆となり、幾百倍にも力をつけ、種々な殺人道具とともに各国は喜々としてそれらを抱え込んでいる。あの広島や長崎で受けたよりも、もっと大きな災いを生むべく、各国の基地で赤いボタンの押されるのを待っている。人類が自からの手で、それを押すときを待つことが、まともなことだろうか。戦争のない平和な暮らしこそ、現代の人間本来の生活ではないのか。

われわれは今日も合唱をし、人の和の暖かみをしみじみ知るとき、どうしても声を合わせていかなければならない。戦争をやめろ、戦争はごめんだと。先日畑中良輔氏との話でこの「阿波祈禱文」と「黙示」のことが話題になった。この清水脩氏の二曲は、音楽としてもまた歌われている内容としてもぜひとりあげたい曲だということ。畑中氏はワグネルで演奏されたい考えを持たれていたが、どうしても東西四大学の合同曲にしたいと氏に断わり、先に演奏する運びになった。

この二曲は多くの人達と歌いたい。そしてできるだけ多くの人達に、戦争への深い悲しみと怨しい憤りと強い平和への願いを聞いてほしいと思う。

お気軽に行ける都心の近代的ホテル

〈観光にビジネスに交通の便利なターミナルホテルです〉



- ご宴会 お一人様 1,000円から
- ご披露宴 お一人様 2,500円から
- ご宿泊 お一人様 1,500円から

近鉄・都ホテルチェーン

大阪都ホテル

国鉄天王寺 4.5.6.7階 TEL.(779)1501

● 指揮者プロフィール



木 下 保

明治36年10月14日兵庫県に生まれる。昭和3年東京音楽学校卒業後、ドイツ、イタリアに留学され、ネットケレーヴェ、バイセンボル両氏に師事され、昭和10年帰朝された。その後東京音楽学校教授となられ、辞任後は、オペラ方面に進出され、現在も「夕鶴」等で活躍されている。近年は合唱の方にも力を注がれ、日本合唱界にとっては非常に大きな存在であられる。

大きく手をひろげて、グーンとばかり男性的にふられる先生の指揮は私達の心ひかれるところです。先生の練習は、いつも“厳しき”と“暖かき”の中で進められます。先生の音楽に対する厳然とした態度は、私達に創造する厳しき、音楽に苦しむ楽しき、また私達の未熟さとそれを克服したときの喜びを教えてください。ときには難解な箇所など素晴らしいテノールのお声で手本を示してください。先生の若さとバイタリティーには若い私達でさえ圧倒されてしまうほどです。「それじゃーだめだよ、おい！」とガッカリされるお姿、「そうだ、その声だよ！」とうまくいったとき指を丸め、ニコリされるお顔、そういう先生に接するたびに私達はさらに努力しようと思うのです。また先生は、音楽における知性、精神力を強調され、私達の学生気質もよく理解して下さって、音楽を創造し成就するように導いてくださるのです。尊敬なる先生、偉大なる先生、父親のようにもあられる先生。

私達はいつまでもこの巨匠に食いついて離れないでしょう。先生に棒を振っていただけの幸せを肌で感じながら、今日もワグネルアンは一杯歌うのです。



福 永 陽一郎

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現芸大）本科ピアノ科出身、1951年藤原歌劇団に入団、ピアニスト、副指揮者、合唱指揮者として経験を積む。1956—1965年藤原歌劇団常任指揮者として活躍。同団の第三次渡米公演に同行。アメリカ、カナダの主要46都市の公演を指揮した。

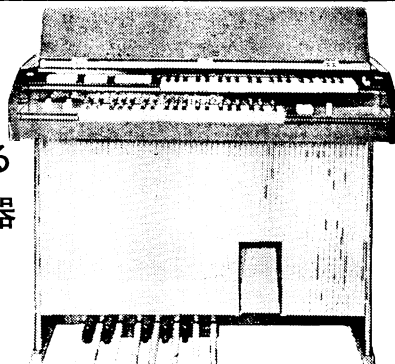
1959年、1961年、1963年、1967年のイタリア・オペラ来日公演には副指揮者、合唱指揮者として参加。

歌劇指揮者としてレパートリーは50数種のオペラを持ち、日本屈指のベテランである。NHK-TVでは、「楽しいコーラス」「音楽をどうぞ」「音楽は世界をめぐる」のレギュラー指揮者をつとめ、他に「芸術劇場」「夢のセレナーデ」にも登場している。

合唱音楽に関しても経験が深く、合唱界の第一人者の一人である。1952年、如中良輔氏とともに東京コーリアーズを創立、日本最高のプロ男声合唱団に育てた。

アマチュア・コーラスに対する理解と情熱も過去20年間、断絶することなく持続され、同志社グリーククラブでは1961年より技術顧問であるほか、客演指揮、合唱講習会の講師、コンクールの審査員として、全国的に活躍。また、合唱用の編曲作品は数百曲に及ぶ。

だれにでも親しめる
やさしい楽器



ワンタッチ操作で、パイプオルガンや代表的な管楽器と弦楽器の音色を多彩に、自由に弾き出せます。

KK カワイ
電子オルガン

ET-5M ■現金正価200,000円

株式会社 河合楽器製作所

神戸支店・神戸市生田区北長狭通3-2-3・TEL.33-1749



浜田 徳 昭

昭和4年山口県に生まれ、6才より母親にヴァイオリンを学びはじめる。斎藤秀雄氏にチェロおよび指揮法を学び、諸井三郎氏に作曲法を学ぶ。

1963年、イタリア政府の招聘で渡欧、国立放送RAIやミラノ・テアトロ・ヌオーヴォのプレジデントに認められる。サンタチェチリア音楽院管弦楽団の定期演奏会をはじめ、ナポリ・スカララッティリエステ市立歌劇場、ミラノ・テアトロ・ヌオーヴォの公演を指揮し成功をおさめる。

この間、広島大学教育学部、武蔵野音楽大学を経て、現在九州大学助教授として、国立芸術工科大学に出向している。



北 村 協 一

昭和29年関西学院大学経済学部卒業。在学中グリークラブの指揮者として活躍。

卒業後、東京コラリアーズ入団。昭和31年同団の指揮者、ルナ・アルモニコの指揮者等を経て、昭和36年藤原歌劇団入団、合唱部クールプティエ専任指揮者をつとめ、昭和38年6月同団によるフッチーニ「外套」を指揮、オペラ指揮者としてデビュー。昭和40年退団。現在東京コラリアーズ指揮者。関学グリークラブ専任指揮者。グリークラブ渡米指揮者。如中良輔、森正、今村征男の各氏に師事。

● 伴奏者プロフィール



伊 奈 和 子

大阪府出身、井口基成門下。

デビュー以来20年、各分野に活動のベテランピアニスト。

1963～1964年ドイツ留学、ウィルヘルム・ケンフおよびロースル・シュミット教授に師事、1965年文化祭賞受賞、相愛女子大学音楽学部助教授。

近代人のパスポート……自動車の運転免許は……在学中に

兵庫県公安委員会指定・県下唯一の公益法人



兵庫県自動車学校

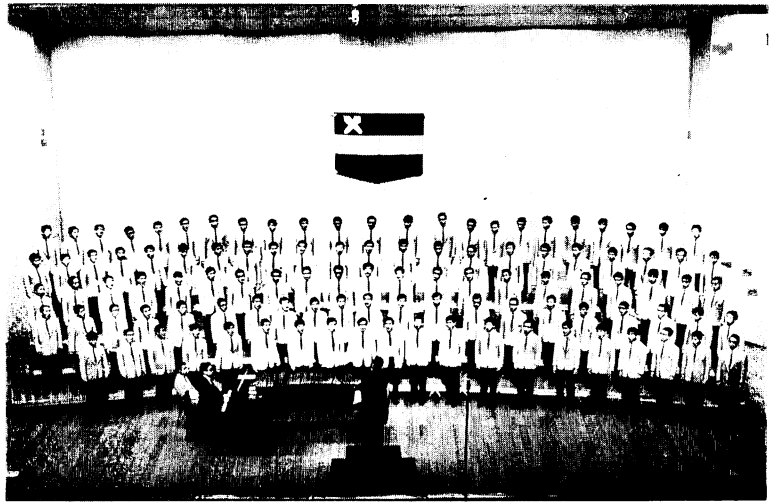
◆ 入学受付 毎日

◆ 入 学 日 毎週金曜日

- 神戸連絡事務所 神戸市電加納町3丁目交差点東側
入学受付 大和信用組合 TEL. 神戸 ☎ 2626 (代)
- 西宮本校 阪急西宮北口駅下車阪急球場南
TEL. 西宮 ☎ 3761 (代)

- 明石分校 県立運転免許明石試験場北隣
TEL. 明石 ☎ 6681～2
- 姫路分校 国道市川橋東300メートル
TEL. 姫路 ☎ 8118

● クラブ紹介——慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

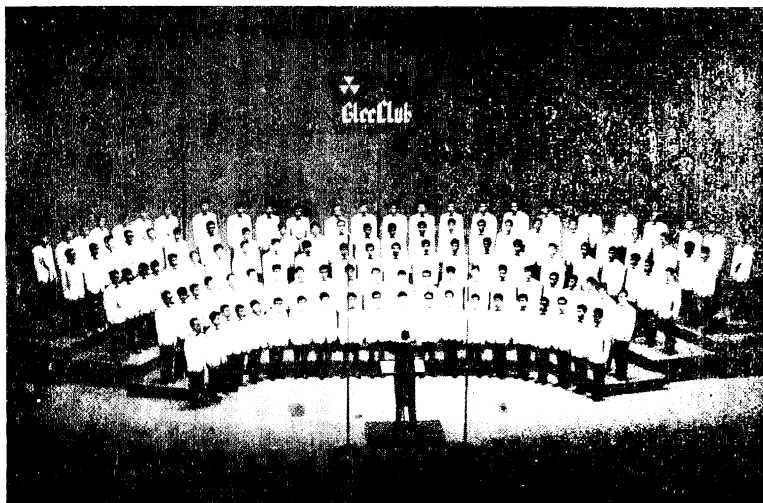


私達の合唱団は、一般のグリークラブとは感覚を異にするワグネル・ソサイエティーというリヒアルト・ワグナーにあやかった雄壮な名を頭にいただいております。そもそも、音楽を受する学生の集団が、明治35年に三田山上に芽生えて以来、関東大震災、太平洋戦争、あるいは著名人をお迎えしての荘厳な数々の演奏会など、何重もの禍福を経て今日のワグネルに至っているのです。この間68年、多くの先輩達の努力の積み重ねにより、来春、ニューヨークで催される第2回世界大学合唱祭へのアジアの代表としての参加が決定し、その歴史と伝統を受け継ぐ現役部員一同より一層の飛躍の年と自覚し、努力しております。

さて、現在、三色旗の下にワグネルライフを満喫している者は、約140名に及びますが、その日常の行動も種々であって、講義やゼミナールの終わるのも待ち遠しく練習会場に駆けつけたり、昼食時に、放課後に、学生食堂でダベったり、あるいは後髪を引かれる思いで練習をサボったり、あるときは、4人集まれば“中国式室内遊戯”に乏しい頭を捻り、コントロールのよさを求めては球転がしに夢中になるのです。しかも、その相棒が必ずワグネリアンであるぐらい、恐るべき結束力を示すのです。

一方、練習日ともなると一日四食は軽く平らげ、それで養った精力を“ワグネル体操”にはじまる繊細な芸術に投入し、精根尽くして帰宅後は、疲れた体に鞭打って肌に向う一介の学生と化するのです。こうした日々の繰り返しであるワグネルライフも、ワグネリアンが一心同体の終日を過ごす春夏の合宿と演奏旅行、他大学合唱団との交歓演奏会、その他多数の行事を経て、1年の総決算である定期演奏会となるに至っては、変化に富んだ豊かなワグネルライフとなるのです。華やかなステージの陰には最高の芸術を目標に日々厳しい練習が続けられ、音楽追求の辛苦をかみしめ、一步一步前進し、その成果が報られるや、感激に胸を震わせるワグネリアンなのです。

現在のワグネルは木下、畑中両先生をはじめとして、ヴォイストレーナーの大久保昭男先生、ピアノ伴奏の大場先生、細川先生、三浦先生あるいは北村先生、福永先生と、諸先生方のご指導にめぐまれ、われわれほど幸福な合唱団はないと喜んでいます。今後も、諸先生方をつかんでみなさぬファイトを持って、音楽の厳しさに勇氣を持って立ち向っていくつもりであります。



“グリークラブ64年の歩み”

わがクラブは今年で創立64年、現在部員 100 余名という大世帯で、その目的たる「同志社精神を載し、メンバー相互のメンタルハーモニー・カレッジライフの向上」に不断の精進を続けております。明治34、35年頃は単に賛美歌を練習するための小グループだったのですが、明治44年現名誉顧問片桐哲先生がこれをグリークラブと名付け、はじめて組織化されました。しかし聖歌隊的なものに飽きたらない学生が大正2年プリムローズなる合唱団を組織、一般の合唱音楽の研究につとめるようになりました。以後両合唱団はあるいは共に、あるいは別に活躍し、その足跡は遠く満洲、朝鮮、中国、台湾に及んでいます。昭和16年両合唱団は合併し、同志社大学男声合唱団となり、戦後いちやく復活し、同志社グリークラブとして今日に至っております。その間、毎年定期演奏会、東西四大学合唱演奏会、関西学院グリークラブとの交歓演奏会、関西六大学合唱演奏会、立教大学グリークラブとの交歓演奏会、テレビ・ラジオ放送、毎年春夏の演奏旅行などに努力を続けてきております。

かくのごとく半世紀を超える輝かしい歴史の間、1,000名近い先輩を送り、今なお音楽界で活躍中の内田栄一、大中寅二、湯浅永年、山口隆俊、宅孝二、水谷央、今西善治郎の諸氏もその一人であります。

現在、福永陽一郎先生を技術顧問、大久保昭男先生をヴォイストレーナーとしてお迎えし、より高度な音楽の創造を目的になお一層前進せんと努力いたしております。

新装開店

すき焼・会席

円山観光会館

京・円山公園藤ノ棚前
TEL (56) 0025・0026

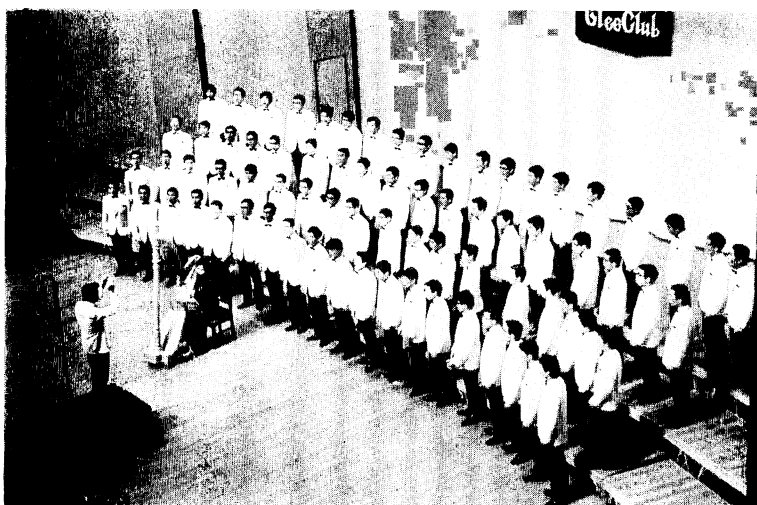
会席 (8品) ￥1,000より

肉すき(御飯付) ￥700〆

鳥水だき(御飯付) ￥700〆

すき焼 酒2本 ￥850より
御宴会 御飯付

● クラブ紹介 ————— 早稲田大学グリークラブ

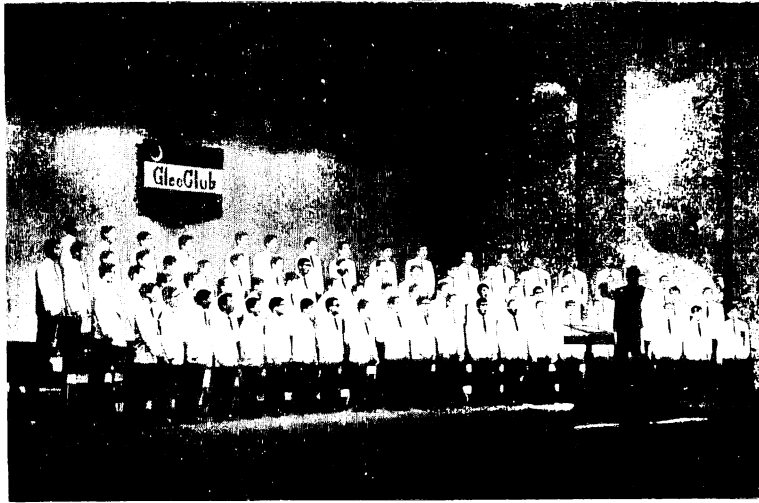


私達グリークラブの母体は大正年間にありますが、着実に歩み出したのは戦後のことです。現在早稲田大学文化団体連合の中で最大の規模を持ち、厳格な規律の下に、合唱を通しての音楽芸術追求とともに、部員相互の親交を深め、また団体生活の中から多くのものを学びつつ、人格形成をも目指して、160名の部員が各々有意義な学生生活を送っていることに誇りを持って、勉学のかたわら、毎日練習に励んでおります。

卒業生は、300名以上に及び、それぞれの職場の合唱団で、あるいはOBの合唱団である稲門グリークラブで活躍しております。ヴォーカル・カルテットのボニージャックス、グリーの育ての親であり、私達に「遙かな友に」の歌をくださった作曲家磯部俣氏、またイタリア留学中、数々のコンクールに優勝、日本に数少ない本格派ベース歌手である岡村喬生氏もそういったグリー学部卒の一員なのです。

年間の主な行事は、学内式典、定期、送別、第九、東西四大学、東京六大学等の演奏会。春夏の演奏旅行、合宿、早稲田祭と数多くあり、それにまた、関東各地の学園祭や催しによく招かれ、ラジオやテレビの出演など、私達の合唱がお役に立てればと飛び回り、親しまれています。

現在、学生合唱の進む方向について、様々の意見が出ております。単なるサークル活動として親しみを求めるだけとか、音楽芸術の追求だとか、合唱団によって、いろいろの行き方があり、一概にどちらの行き方がすぐれているとはいいきれませんが、私達グリークラブはようやく一つの方角を決定して、これからの進路にそって進むもうとしているのです。



緑なす六甲の山並みを背に波静かな瀬戸内海を眼下に見下す高台、美しく静かな環境に恵まれた神戸原田の森の関西学院に、わが国最古の男声合唱団として、関西学院グリークラブが誕生したのは、19世紀もいよいよ最後という1899年のことでした。キリスト教精神によって建てられたこの学院には創立当初からすでに音楽がありました。

明治29年以來、関西学院では毎年1回、英語会が催されていましたが、明治32年そのプログラムに合唱を入れようということになり、初めて正式に合唱団が組織され、当時の吉岡院長がその合唱団を「Glee Club」と名付けました。これが日本の数あるグリークラブの起源であります。

以來69年間、関西学院グリークラブは、恵まれた学院の宗教的雰囲気と、内外の温かいご指導、そして何よりも歌うことの好きな幾多の先輩達の努力によって、はぐくみ育てられてまいりました。

中でも山田耕祥、津川圭一、山本康、林雄一郎、北村協一等の諸氏は私達の誇りとする大先輩であります。

6年前の第15回全日本合唱コンクールにおいて、わがグリークラブは、戦後通算12回目、昭和35年より3年連続優勝を成し遂げ、昭和39年は昭和29年に続いて、二度目の名誉ある招待演奏を行ないました。

また38年3月にはわが国合唱界初の海外演奏旅行として、約2週間、台湾を訪問してまいりました。そして3年前にはニューヨークで開催された第1回世界大学合唱フェスティバルに日本代表として名誉ある指名招待を受け、ニューヨークの松舞台で大成功をおさめ、その後の1カ月間にわたるアメリカ全土における演奏旅行で、関西学院グリークラブの名声を高めてまいりました。また歌と心を通じて世界中の学生と兄弟の契りを結び、昨年はアメリカから、ミシガン大学、ハーバード大学を、今年はドイツからミュンスター大学、韓国から延世大学と各国から姉妹合唱団を迎え、交歓演奏会を催してまいりました。

このように関西学院グリークラブは、今や日本の関学グリーから世界のグリーに成長発展しつつあります。

今日もまた、100余名の部員は、メンタルハーモニーをモットーに、よりすぐれた音楽を創り出そうと厳しい練習に励んでおります。

東西四大学合唱演奏史

- 第1回 昭和27年 9月21日 同志社栄光館
9月22日 大阪産経ホール
合同演奏 「Ave Maria」「愛でし友」
- 第2回 昭和28年 9月20日 日本青年館ホール
合同演奏 「いざ起て戦人よ」「おお美しき
星よ」「希望の島」
- 第3回 昭和29年 9月18日 同志社栄光館
19日 大阪産経ホール
合同演奏 「Zum Gloria」「Zum Sanctus」
「秋のピエロ」
- 第4回 昭和30年 9月18日 日本青年館ホール
合同演奏 「Die Nacht」 シューベルト「詩
篇」103篇 Wedianita
- 第5回 昭和31年 9月15日 宝塚大劇場
16日 同志社栄光館
- 第6回 昭和32年 6月23日 日本青年館ホール
合同演奏 「春が来たかと」「ふるさと」
- 第7回 昭和33年 6月21日 同志社栄光館
22日 大阪毎日ホール
合同演奏 「Rock a ma soul」「What kind
a shoes」
「Never said a mumbarin' word」
「Joshua fit de battle of Jericho」
- 第8回 昭和34年 6月21日 共立講堂
合同演奏 山田耕筰作品集「からたちの花」
「待ちぼうけ」「あわて床屋」「ペ
チカ」
- 第9回 昭和35年 6月25日 京都会館ホール
26日 大阪フェスティバルホー
ル
合同演奏 「兵士の合唱」「巡礼の合唱」
- 第10回 昭和36年 6月17日 東京文化会館
18日 東京文化会館
合同演奏 「枯木と太陽の歌」
- 第11回 昭和37年 6月23日 京都会館ホール
24日 大阪フェスティバルホー
ル
合同演奏 「Listen to de Lambs」
- 第12回 昭和38年 6月22日 東京文化会館
23日 東京文化会館
合同演奏 「若者の歌」
- 第13回 昭和39年 6月13日 京都会館ホール
14日 大阪フェスティバルホー
ル
合同演奏 「Credo」
- 第14回 昭和40年 6月19日 東京文化会館
20日 東京文化会館
合同演奏 「蛙の歌」
- 第15回 昭和41年 6月13日 京都会館ホール
14日 大阪フェスティバルホー
ル
合同演奏 「枯木と太陽の歌」
- 第16回 昭和42年 6月24日 東京文化会館
25日 東京文化会館
合同演奏 歌劇『フィデリオ』より
「囚人の合唱」
歌劇『さまよえるオランダ人』より
「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」



画材 ギャラリー
カワチ

大阪市南区心斎橋筋1丁目43番地

TEL. 大阪 271-2148・261-1468